

群馬県の新たな地震被害想定について

○背景 阪神・淡路大震災後に実施した地震被害想定から15年以上経過、東日本大震災の発生など
→社会条件の変化、新たな知見、技術の進歩等を踏まえ見直し(群馬県地震被害想定調査検討委員会)

○調査の特徴 前回調査を全面的に見直し(対象地震の変更、被害想定手法の見直し、新たな被害予測項目)
最大規模の地震を想定【中央防災会議の報告(2011)による】

- ① 関東平野北西縁断層帯主部(長さ82km、想定される地震の規模M8.1)【出典:地震調査研究推進本部】
今後30年以内の地震の発生確率は、ほぼ0%~0.008%【地震調査研究推進本部地震調査委員会(2012)による】
- ② 太田断層(長さ24km、想定される地震の規模M7.1)【出典:熊原・近藤(2009)】
- ③ 片品川左岸断層(長さ20km、想定される地震の規模M7.0)【出典:新編日本の活断層他】
(②と③は、断層長さの不確実性を考慮し、震源断層としての長さを延長)

○調査内容 揺れ・地盤被害、建物被害、火災被害、人的被害、交通被害、ライフライン被害、
避難者数等、経済被害、社会機能支障(飲食・医療・住機能)

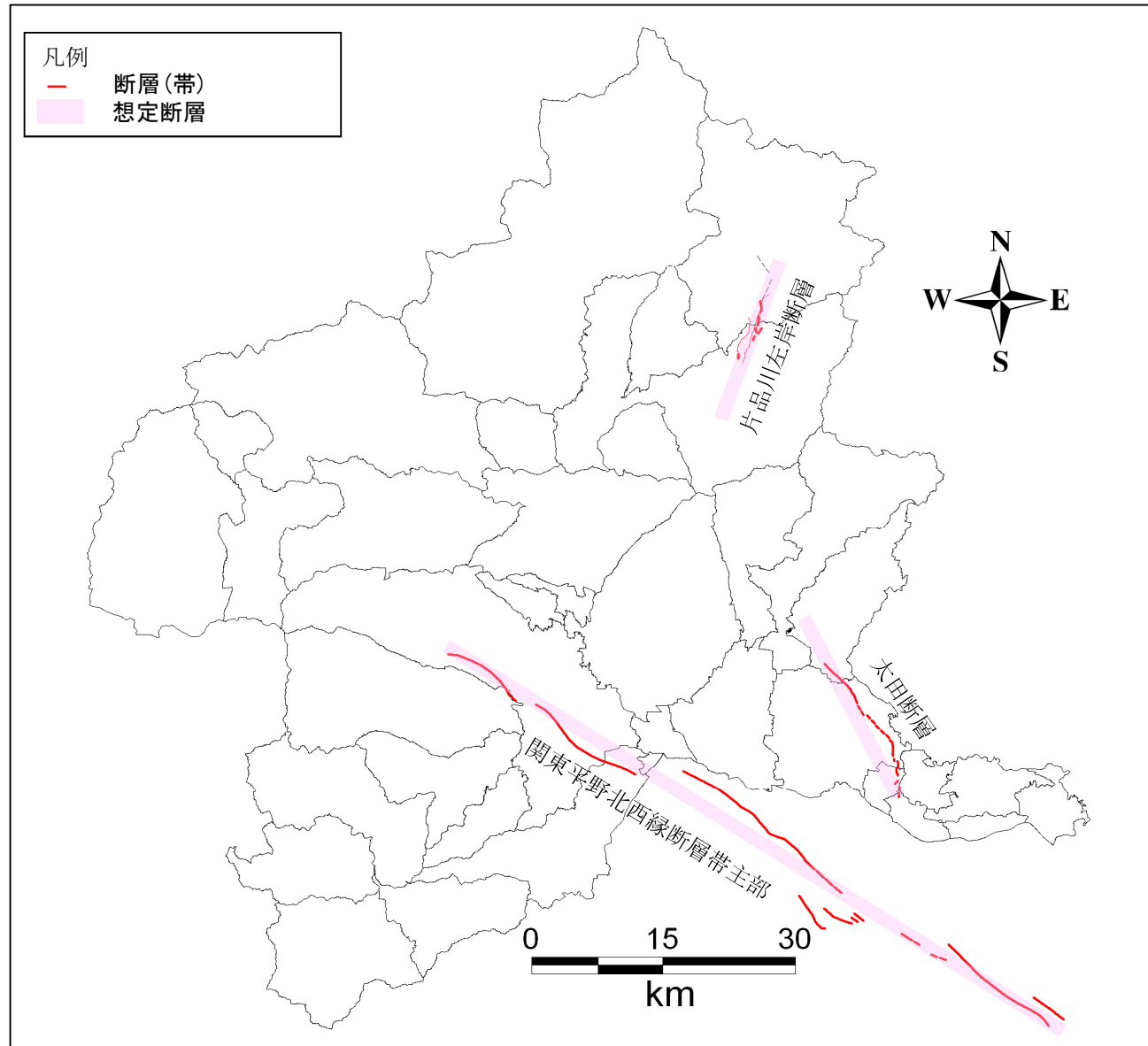
○想定地震の概要

- ①関東平野北西縁断層帯主部による地震(M8.1)では、最大震度7の地域が出るとともに、震度6強の地域が県南西部の広範囲に広がる。死者は約3,130人・負傷者約17,740人、建物の全壊・全焼は約60,460棟。(3つの地震中最大被害)。
- ②太田断層による地震(M7.1)では、太田市や伊勢崎市東部に震度6強の地域が大きく広がり、太田市には震度7の地点も点在する。死者は約1,130人・負傷者約7,880人、建物の全壊・全焼は約22,280棟。
- ③片品川左岸断層による地震(M7.0)では、沼田市東部や片品村南部に震度7の地点が出るとともに、震度6強の地域が広がる。死者は約20人・負傷者約90人、建物の全壊・全焼は約340棟。

○今後の予定

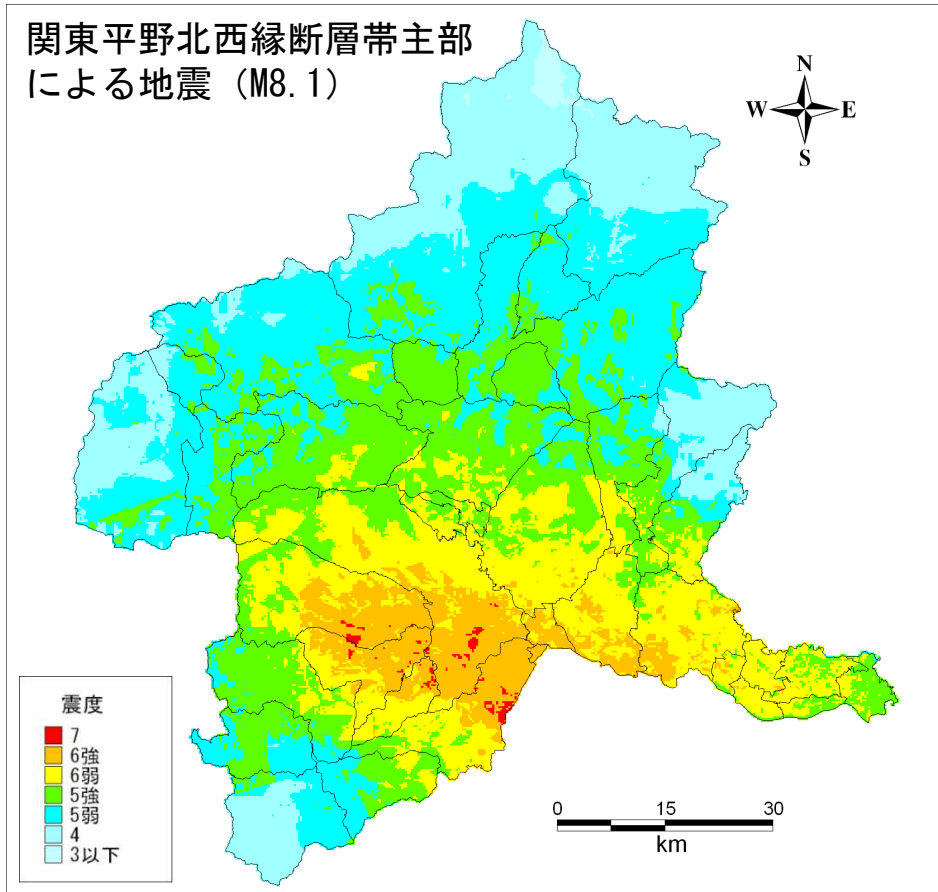
調査終了後には、想定された被害に対し、各種の地震防災対策を実施することによる被害軽減効果を試算した上で、今後取り組むべき施策事業を体系化した「群馬県地震防災戦略」を策定する。

被害想定を行う3つの断層(帯)

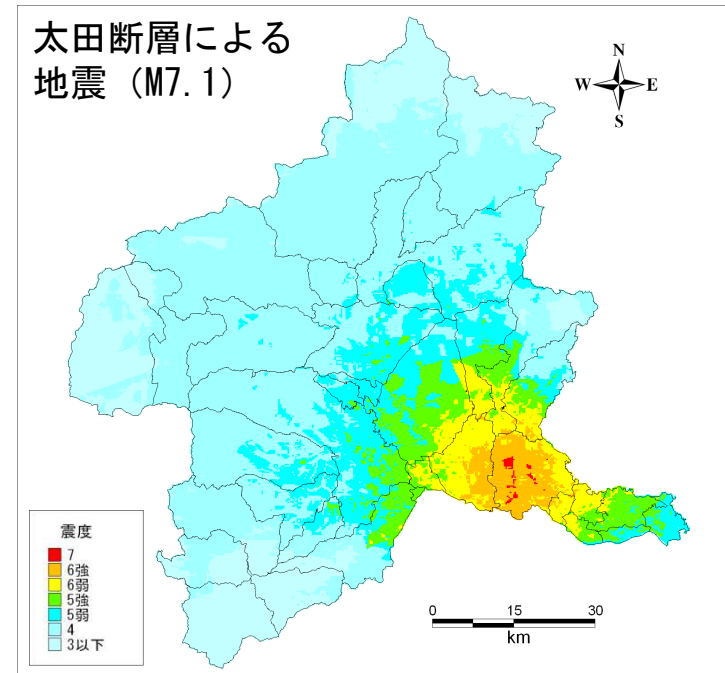


震度分布図

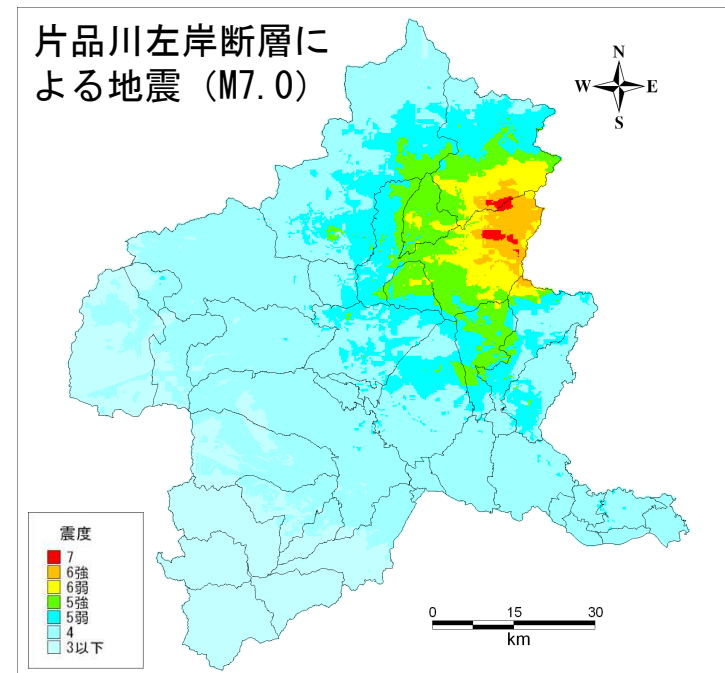
関東平野北西縁断層帯主部
による地震 (M8.1)



太田断層による
地震 (M7.1)



片品川左岸断層に
よる地震 (M7.0)



○被害の概要

冬の朝5時、 風速9m/秒の場合		関東平野北西 縁断層帯主部 による地震 (M8.1)	太田断層 による地震 (M7.1)	片品川左岸 断層による 地震(M7.0)	<前回調査> 群馬県南東部 地震(M7.0/夜間)	
人的被害	死者	約3,130人	約1,130人	約20人	約1,070人	
	原因別	揺れ	約2,890人	約1,100人	若干人	—
		火災	若干人	若干人	—人	—
		その他*	約240人	約30人	約20人	(考慮せず)
	負傷者	約17,740人	約7,880人	約90人	約42,800人 (重軽傷者)	
	原因別	揺れ	約17,310人	約7,780人	約60人	—
		火災	約90人	約20人	—人	—
その他*		約340人	約80人	約30人	(考慮せず)	
建物被害	全壊・全焼棟数(重複除く)	約60,460棟	約22,280棟	約340棟	約74,000棟 (重複不明)	
	原因別	揺れ・液状化・急傾斜	約59,050棟	約21,900棟	約340棟	約71,000棟 (大破)
		火災	約1,410棟	約380棟	—棟	約3,000棟
避難者の発生(ピーク:1日後) ※冬の18時(風速9m/秒)の場合		約54万人	約19万人	約770人	約18万人 (時間変化考慮せず)	

*その他：急傾斜地崩壊（がけ崩れなど）やブロック塀等の転倒、屋外落下物による。